

DOCUMENT Eye series—203

混合交通を観察する

平成17年に発生した歩行中の交通事故負傷者数は8万714人。そのうち65歳以上の高齢者は2万995人と、26.0%を占める。さらに、歩行中の死者数は、高齢者が約3分の2にあたる65.2%を占め、圧倒的に多い。今回は日没前後の時間帯に、信号機の

高齢歩行者は横断歩道を渡る際、左右確認を行っているか?

●WHY



高齢者は足元を気にして目線が下向きになりやすい

- 観察場所/東京都日野市高幡
- 観察日/12月5日(火曜日)
- 天候/晴れ
- 観察時間/16:15~17:15
- 観察者/5名

●信号機のない交差点で高齢歩行者の左右確認状況を観察する 横断歩道を渡る高齢歩行者138人中 左右確認を行ったのは41人(29.7%)

面に向かう道幅の広い通りと、狭い通りが交差している。横断歩道は計3カ所で、道幅の広い通り側が1カ所となっている。広い通りは駅からの路線バスや、駅への送迎のクルマなどが多く通行していた。この日の東京の日人時刻は午後4時28分だった。

1時間の観察で、この交差点の横断歩道を渡った歩行者は計845人。このうち65歳以上と思われる高齢者は計138人(男性62人、女性76人)。横断歩道を渡る際に左右確認を行った高齢歩行者は41人(29.7%)、片側のみ確認が54人(39.1%)、左右確認を行わなかった人は43人(31.2%)だった。

左右確認を行う高齢者は、目線の動きだけでなく、顔を大きく動かして左右を何度も確認していた。しかし、横断を始める時、足元を気にして目線が下を向いた状態で歩く人が見られた。

高齢歩行者以外にも、左右確認をまったく行わない人が多く観察された。特に、クルマの通りが少ない道幅の狭い道路を横断する人は、左右確認を行わない人がほとんどだった。集団や2人連れで横断す

る際には、後方を歩く人はまったく左右確認を行わない例が目立った。携帯電話の画面に気をとられ、左右確認を行わない歩行者も見られた。中には、横断歩道以外での横断や斜め横断も観察された。左右確認を行わずに飛び出してしまっ子どもも見られた。

横断歩道付近の道路に駐車車両がある場合、駐車車両が死角となって周囲が見えにくくなっていった。そのため、横断の途中で立ち止まり左右確認をする例も観察された。

●●PROPOSE

慣れた道でも左右の安全確認を

高齢者に限らず、横断歩道を渡る際、左右の安全確認が不十分な歩行者は多かった。通い慣れた道でも決して油断をせずに、左右の安全確認をしっかりと行っほしい。

高齢者の場合、急に道路に飛び出したリ、携帯電話を使用しながら歩いたりする例はなかったが、足元を気にして目線



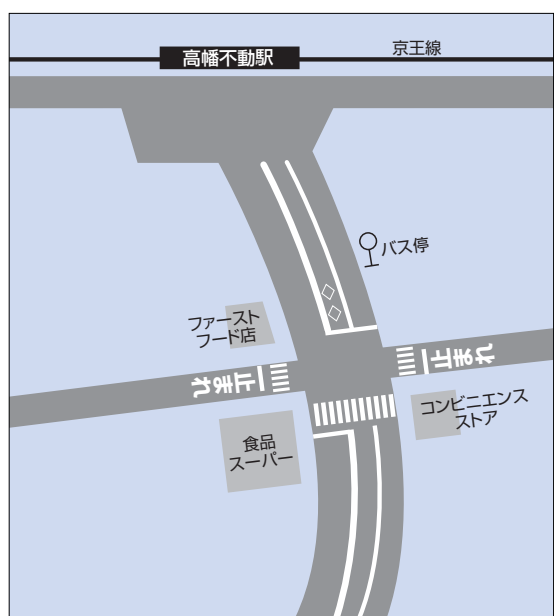
夕方や夜の暗くなった時間帯には、白色の紙袋などが目立つ



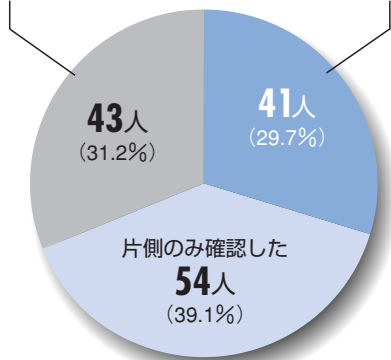
横断の途中で左右確認を行う人も見られた

が下向きになりやすい傾向が見られた。横断中にクルマが接近しても認知するのが遅れがちになると考えられる。クルマを運転するドライバー、ライダーに気づいてもらえるよう、目立つ服装や、反射材の利用などの安全確保の工夫が大切である。

ドライバーやライダーは、道路を横断している高齢者を見つけたら、信号機のない横断歩道では歩行者を優先させ、クルマの接近に気づいていない場合もあることを考慮して運転する必要がある。また、歩行者の安全確認の妨げになるので、横断歩道付近にはクルマを駐停車しないほしい。



●信号機のない交差点での高齢歩行者の左右確認状況
左右確認をしない 左右確認をした



●信号機のない交差点での歩行者の左右確認状況

	左右確認をした	片側のみ確認した	左右確認をしない	小計
小学生以下	5	7	33	45
中学生・高校生	15	9	37	61
成人	152	128	321	601
高齢者	41	54	43	138
小計	213 (25.2%)	198 (23.4%)	434 (51.4%)	845

※小学生以下(12歳以下)、中学生・高校生(13~18歳)、成人(19~64歳)、高齢者(65歳以上)の判断は、観察者の見解による。